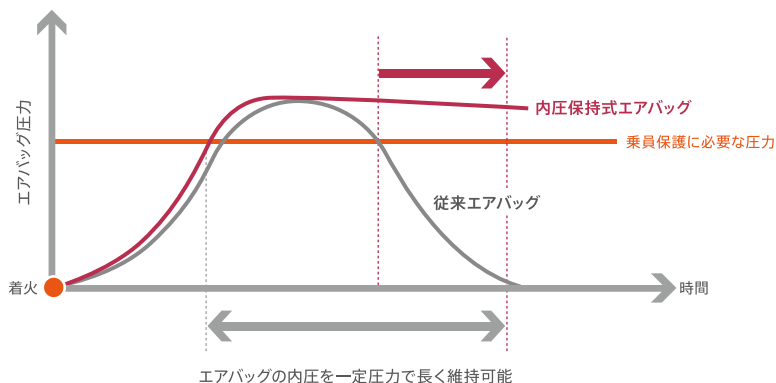


効果的に保護性能を発揮する 内圧保持式エアバッグ

体格の大きな方がシートポジションを後方いっぱいまで下げる等、乗員がエアバッグに接触するまでの時間が長くなるケースでも十分な内圧を保持し、優れた拘束性を発揮できる助手席用エアバッグを新開発しました。一般的なエアバッグでは、ベントホールと呼ばれる丸い穴をその側面に設け、乗員が展開後のエアバッグに接触した際に内部のガスを抜くことで、エネルギーを吸収する機能が盛り込まれています。このベントホールは一定時間が経過すると自動的に内圧が低下する傾向にあるのに対し、新開発のエアバッグでは、スリットの長さや折り返しの位置などを工夫することにより、乗員がエアバッグに接触するまでは、基本的にベントホールが閉じた状態にしておくことができます。これにより、乗員がエアバッグに接触するまでの時間が長引いたとしても、保護に必要な内圧を保持することができるようになりました。

内圧保持式エアバッグ説明図



従来エアバッグ

膨張時から乗員接触まで常にベントホールが開き、排気を行う。



図1 内圧保持式エアバッグ

乗員が接触するまではスリットがふさがれた状態となり、内圧を保持(図1)。乗員が接触後は、スリットが開いてガスを排出し、エネルギーを吸収する(図2)。



図2

事故を未然に防ぐための アクティブセーフティ&予防安全

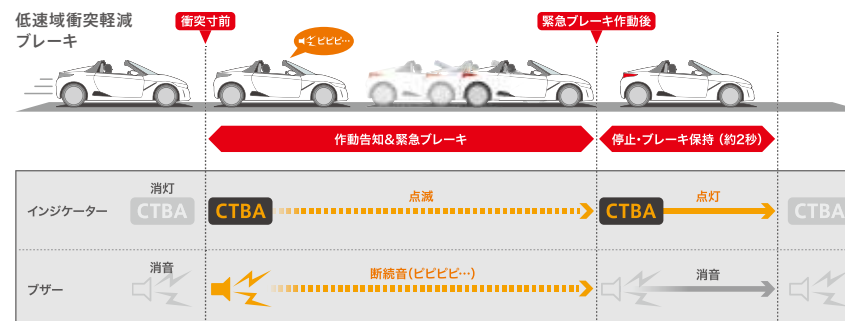
万一事故が発生した際には優れた衝突安全性を誇るボディ、シートベルトやエアバッグなどにより乗員を保護する一方、事故を未然に防ぐための取り組みはそれ以上に大切なものとなります。

事故を回避するための操安性や制動力を高めたほか、車高が低く、より一層他車から「見られる」ことが危険回避に重要であることを考慮し、急ブレーキ時にハザードランプを高速で点滅させる「エマージェンシーストップシグナル」を全車標準装備。自動ブレーキによる低速域衝突軽減、及び誤発進抑制の機能を備えた「シティブレーキアクティブシステム」(メーカーオプション)を設定しました。



エマージェンシーストップシグナル
作動イメージ

シティブレーキアクティブシステム動作説明図



30km/h以下での衝突事故の危険をドライバーに知らせ、自動ブレーキで衝突回避・被害軽減を行う。

誤発進抑制機能



前方に車両等の障害物があるにもかかわらずアクセルペダルが踏み込まれた場合、音と表示によって作動を知らせるとともに、エンジン出力を制御して誤発進を抑制する。(MT車は除く)